

【Vol.241】今月のひとこと

今月の
ひとこと



新年おめでとうございます。年初にあたりFIWAの理事のみなさんからご挨拶させていただきます。

(順不同です)

岡本 和久

FIWA®のビジョンは「生活者が経済的束縛から解放され、豊かで幸せな人生を実現できるための支援活動を行う」というものです。人生の目的はお金持ちになることでもなければ、出世をすることでもない。私たちは「しあわせ持ち」になるために生きているのです。私がよくお話するのが $I=O \times V$ という方程式です。「O」というのはアウトサイド・ウェルス、つまり外側の富。これは通常、お金で換算できます。「V」はバリュー、価値観です。品格であり、1円当りの幸福感です。そして「I」はインサイド・ウェルス、心の内側の富です。つまり、「外側の富×1円当りの幸福感=内側の幸福感」という訳です。

本当の顧客本位のアドバイスとは外側の富であるお金との正しい付き合い方をアドバイスすると同時に、相談者が、幸福感が最大化するようなお金の使い方をアドバイスすることだと思います。そう、「品格あるお金持ち」を増やすのが本当のアドバイザーであり、それによってFIWA®のビジョンが達成されていくのです。今年も、みなさんの活躍を期待するとともに一緒にFIWAというソーシャル・ムーブメントを推し進めていきましょう。

北村 勝信

新年あけましておめでとうございます。近頃、FIWA®をはじめとした「中立したアドバイザー」の置かれている環境は、目まぐるしい変化の様相を呈していると感じます。FIWA®は、設立以来3年が経ちましたが、ブレずに信念を貫いています。そのような組織の監事として、本年も職責を一層しっかり果たしてまいります。

みなさま、あけましておめでとうございます。

今年は、「資産所得倍増プラン」第3の柱「顧客本位のアドバイザーの認定・育成」の議論が本格化されます。

私たちFIWA®の正准会員が、リーダーシップをとって、日本に暮らすすべての皆様が、長い人生、幸せで安心して暮らしていけるように、お金のよきアドバイザーとして頑張ってみましょう。私の思いは、【Vol.241】FIWA®理事リレー投稿にこめております。「行く価値ある場所に近道などありませぬ」「一念、道を拓く」です。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

石津 史子

社労士登録して事務所を開業したのは1985年6月。翌年4月に国民年金を全国民共通の基礎年金に位置付ける新しい年金制度が始まりました。今年で38年になりますね。この間、自営業者で基礎年金しかなかった私は「自分年金作り」を心に留めて歩んできましたが、ようやく国もこれに本腰を入れるようになり、ライフプランに合わせて利用できる制度が整ったなと思います。多様化する生き方に耳を傾け、新たな一歩を踏み出す勇気に寄り添ってサポートしていきたいと思います。

原田 武嗣

哲学エッセイストの池田昌子さんが、－「お金は人生にとって大事なもののなのに、学校では教えてくれない」という親の言を読んだことがある。完全に逆である。人生にとって大事なものはお金ではないと教えることこそが教育、基本中の基本である。－とその著作の中で書いていました。正鵠を得た言葉です。お金は必要なものですが、人生にとって本当に大事なものはほかにあります。そのことに大切な日々の時間とエネルギーを使うために、積立NISAやiDeCoを活用して、身の丈に合ったほったらかし超長期世界株式インデックス投資を試してみましょう。

高橋 忠寛

新年おめでとうございます。

私個人としては「金融商品を販売しないアドバイザー」として活動を始めて9年目となりましたが、アドバイザーと言えば当然に金融商品を販売しない専門家だと認識してもらえるように、アドバイザーの提供できる価値を多くの人に伝えていながら、FIWA®の認知度向上にも取り組んでいきたいと思っています。

本年もよろしくお願いいたします。



第60回 FIWAサムライズ勉強会

開催形式 : OnLine

主催担当 : 岩城みずほ

開催日 : 1月27日(金)

開催時間 : 19:00~20:45

会場 : Zoomによるオンライン開催

講演 : 新しいNISAの制度について徹底解説

講師 : 高橋 義憲氏 CFP®・社会保険労務士

備考 : 主催 : NPO法人みんなのお金のアドバイザー協会

お申込先 : <https://somerise.net/2022/12/22/1565/>

FIWAマンスリー・セミナー #209

開催形式 : On Line

主催担当 : 赤堀薫里

開催日時 : 2月19日 12:30~15:30

講演・講師 : 岡本 和久 「ホーリスティックなライフプランと資産運用」

フィンウェル研究所代表 野尻 哲史氏 「超高齢社会における資産形成と資産活用」

備考 : お申込みは開催日の三週間前より以下のサイトにて承ります

<https://happymoney.stores.jp/>

FIWAマンスリー・セミナー #210

開催形式 : On Line

主催担当 : 赤堀薫里

開催日時 : 3月19日 12:30~15:30

講演・講師 : 岡本 和久 「これだけは知っておきたい投資理論」

作家 板谷 敏彦氏 「コレキヨの人生と株価指数(仮)」

備考 : お申込みは開催日の三週間前より以下のサイトにて承ります

<https://happymoney.stores.jp/>

FIWAマンスリー・セミナー #211

開催形式 : On Line

主催担当 : 赤堀薫里

開催日時 : 4月16日 12:30~15:30

講演・講師 : 岡本 和久 「ある外資で体験した経営スタイルと人事制度」

鎌倉投信 代表取締役社長 鎌田 泰幸氏 「鎌倉投信の未来像を語る」

備考 : お申込みは開催日の三週間前より以下のサイトにて承ります

<https://happymoney.stores.jp/>



今月号の記事をすべてダウンロード

このページを印刷する

カテゴリー
タグ

今月のひとこと
【Vol.241】 2023年01月16日発行

【Vol.241】FIWAマンスリー・セミナー講演より

米国での伝統的投資戦略を日本市場検証する～ダウの犬を中心に～

講演：青山学院大学客員教授・統計数理研究所客員教授
ニッセイアセットマネジメント投資工学開発センター長

吉野 貴晶氏

レポーター：赤堀 薫里

吉野 貴晶氏プロフィール

博士（システムズ・マネジメント）。

金融情報誌「日経ヴェリタス」アナリストランキングのクオンツ部門で16年連続で1位を獲得した後、ニッセイアセットマネジメントに入社。大学共同利用機関法人 統計数理研究所のリスク解析戦略研究センターで客員教授を兼任。青山学院大学大学院国際マネジメント研究科（MBAコース）で客員教授。経営戦略、企業評価とポートフォリオマネジメントの授業の教鞭も取る。代表的な著書に『No.1アナリストがプロに教えている株の講義』（東洋経済新報社、2017年）、『サザエさんと株価の関係—行動ファイナンス入門』（新潮新書、2006年）。



アメリカの伝統的な投資戦略を日本市場で検証した場合、どれくらい有効性があるのか。それぞれの長所や注意点を捉え、最終的に個人の特質を考えたうえで、どういった戦略を使ったらいいのか、そのヒントをお話します。

ダウの犬投資法は、オヒギンズ・アセット・マネジメントの運用最高責任者であるオヒギンズさんが【BEATING THE DOW】という本の中で提案した、配当利回りを使った非常にシンプルな戦略です。

毎年年末に、ニューヨークダウ30銘柄の中で配当利回りの高い上位10銘柄を選別する。その10銘柄に等金額の投資を行い1年間動かさない。翌年の年末に、もう一度この30銘柄の中で配当利回りの高い銘柄上位10銘柄にリバランスする戦略です。配当利回り上位10銘柄に等金額投資をするという非常に簡単な手法が、ダウの犬という戦略です。

今回、日本市場に応用した場合を検証しますが、その前に配当利回りの確認をしてみます。配当利回りとは、一株当たりの予想配当金を株価で割るという非常にシンプルな指標です。この配当利回りの計算で、どの予想配当金を使えばいいのか、悩ましいところです。これがいいかどうかは別として、通常使うのは会社側が公表する配当計画、あるいはそれをベースにした会社四季報や会社情報の今期予想を使うのが一般的に使われるものかなと考えられます。来期を使うケースもありますが、配当はどうしても会社側の配当政策も絡んでくるので、あまり長期的な予想を使っていくと難しいでしょう。一般的には今期予想を使うのが多いのかなと考えています。

日本市場で適応する場合、ニューヨークダウに変わるものとして、TOPIXのコア30。今を代表する30銘柄といった意味で、ある程度ニューヨークダウに相当する日本市場の30銘柄として使えるのではないのか。日本市場で適応する場合には、同じようにコア30に該当する銘柄の配当利回りの上位10銘柄を毎年リバランス、1年間ホールドするという形の検証をしてみました。

コア30の中で、配当利回りの高い上位10銘柄に等金額投資したものを2007年からずっとリバランスしてつなげてきたものが、2020年の年末に312%。ここで注目すべきことは、非常にシンプルな戦略ですが、TOPIX配当込みが169%の上昇に対して、かなりパフォーマンスが高い。ダウの犬は、コア30の中の配当利回りが高い上位10銘柄に絞った投資ですが、これ以外の20銘柄に同じように毎年リバランスすると、トピックス配当込みに対してかなりパフォーマンスが劣後しています。本当にシンプルな配当利回りの高い銘柄を1年間ホールドして毎年年末にリバランスするという戦略が非常に効果的だと言えらると思います。

もう一つ考えてみたことは、5銘柄でリバランスをして、等金額投資をしてみました。すると5銘柄の方が、よりパフォーマンスが高かった。10銘柄ですと、それなりに等金額投資でも必要な資金が増えてしまいます。リスクがある程度高くなるかもしれませんが、逆にもっと少ない資金で、銘柄数を減らして5銘柄でやっても、長期投資の観点で見れば、非常にパフォーマンスが良いため、5銘柄でもいいのではないのかと考えられます。

配当利回りが高い銘柄を選んで買えばいいと言われますが、そんなに簡単な戦略ではありません。やはり株価が下がってしまうという問題があります。インカムゲインを狙ってキャピタルゲインが下がり、トータルで収益が悪くなってしまいます。やはり高配当利回り銘柄を選ぶ際には、株価自体が下がらない、下がりにくいところを選んでいく必要があります。そういった意味で、日本を代表するコア30企業にユニバースを絞ることで、ある程度、大型株で業績も安定し、リスクも限定できているのではないのかと思います。

実は、高配当利回り銘柄投資の留意点は、株価の行方に注目していかないといけない。当たり前のことですが、配当が減らないかチェックする。将来、減配、無配になるとインカムゲインの受け取りも厳しくなる。結局、株価の行方と配当が将来どうなるのか、この二つをチェックしていかないといけない。そうなってくると、どうしても業績的面でチェックをする。業績の安定性、企業の株主還元に対するスタンス、この二つがポイントになってきます。

講演では、バリュー系の戦略であるFスコア。またバリューだけでなくグロース性も扱いながらのバリュー投資戦略であるマジックフォーミュラ戦略の説明。企業のライフサイクルを使った投資法について解説。最後にそれぞれの戦略の長所と注意点をお話いただきました。（文責 FIWA）

岡本 | 二つほどお聞きしたいのは、2007～2021年の期間、金利が低下していく時代ですよ。配当をベースにした戦略というのが相対的に金利低下局面において非常に有利に働いたというようなことがあったのか、なかったのか。もう一つは5銘柄。犬五匹の方がいいというのはよくわかりましたが、これ、5銘柄にすることによって10銘柄と比べてリスク水準がどれくらい高くなっていくのかということですよ。特に近年のところを見ると、5銘柄の方がリスクは高いような気がします。この辺のところはどうでしょうか。

吉野 | 実際に計算は紹介してなくて申し訳ないのですが、おっしゃるとおり5銘柄だとリスクは高いです。その分やられる年もありますので、5年ぐらい保有していかないと、という感じになっています。金利が低下していく中で、意外とグロース株優位になってきているので、18～20年ですよ。その間は厳しい戦略になっていたかなと。米国金利の話になりますが、2021年からは比較的金融緩和からの金利が上がってくる戦略なので、非常に良くなってきています。そういうマーケットの環境は受けてしまう戦略にはなります。

参加者 | Fスコア戦略、低PBR戦略のところ、この戦略で日本と米国、もしくは日本とそれ以外で有効性の違いがあるのか、ないのか、など考えています。というのは銀行、金融は除いてはいますが、圧倒的に日本市場では、銀行を除いてもPBRが1倍割れ銘柄が多いですよ。日本の場合、長年低PBR放置銘柄みたいなものが多くて、低PBRから戻ってこない企業が多すぎる難しさがあるのではないのかと思ったんですけど、それでもこれは日本でも有効でしょうか？

吉野 | そうですね。低PBRだけだと、近年は横ばいになってはいますが、Fスコアで見ると、それぞれのチェックをしているので、低PBRで放置されている銘柄を探るのではなくて、低PBRから復活する銘柄を探していこうという戦略です。レバレッジ改善とか、回転率の変化などの、変化をとっていこうという戦略になるので、そういう意味では日本市場では効果が高いものになるのではないのかと思います。

岩城 | 成長期にある企業というのは、配当性向が高いとは言えない企業が多いと思います。言い換えてみれば、配当より投資に向ける。成長に向けると思うんですね。アメリカなんか最近、配当をあまり払わないという企業が増えてきたということで、このダウの犬戦略はすごく面白いと思いますが、実際は企業として魅力的なんだろうかと思いますが、どうなんですかね？

吉野 | 日本の企業の問題は、成長する企業は内部留保を増やして再投資をします。資本コストというか、ROEでいうと8%だとか。ROAベースでいうと全資産に対して利益を稼ぐことが4%や5%。そういうところを目安にした場合、自分の企業のROEやROAを下げる事業には、少なくとも投資すべきではない。特にアメリカは株主の追求が大きいので、そういう事業には投資をしないことが基本です。ROE、ROAが下がってくる事業は売却しようということを積極的にしようという発想がまず一つ。

日本はまだまだリテラシーがあまり高くないので、そういうのがなかなか見られない中で、近年は配当を払って、分母の資本を増やさずROEを下げないようにする動きが高まり、「配当を払いましょう！」という流れになっています。そういう意味で、今、日本では配当利回りという投資は、注目すべき時期にあるのかなと思います。ここ最近、コロナ禍で企業自体がキャッシュを持っていなかったことによって、ビジネスが厳しくなってしまったことがあったため、破綻するという話を考えるとキャッシュで持っていないてはいけないのではないのかという議論も逆に出てきています。無駄なキャッシュを会社が持っていること自体が、事業に生かしていない、本来出すべきではないという議論も本当はありますが、足元はそこに対する逆風があります。

もう少しファイナンスの議論でいうと、キャッシュを持っている企業は、米国ではグロース・オプションという議論があります。ビジネスとしてすごく何か良いビジネスが出てきたときに、すぐにそれに投下できるようなキャッシュを持っているということは、ある種、グロース企業は許される文化もあります。それをグロース・オプションと、ファイナンスでは言われています。そういうのも別途あり、日本ほどキャッシュを持ちすぎだとか、配当を出さないといけないという話よりは、複雑になっているのかな、というのが現状です。

それがコロナ禍もあったので、岩城さんが言っているような現状になってしまっているのかと思います。特に日本は、従業員に対して給料を払わないという議論が出てしまっているので、株主重視という話にいったん流れましたが、逆に人的資本、従業員を大切にすべきとか、ESGやサステナビリティを重視する方に、お金を使う必要があるのではないのかという話があり、ちょっと、複雑になっている現状の中で、ダウの犬というのが非常にシンプルだけ有効なのかなというところだと思います。

岡本 | 基本はROEで稼いだ利益は、もちろん配当として払う部分と、再投資に回す部分とあるけれど、再投資に回すと言っても、ほとんど銀行預金で0パーセント金利で積み上がってきてしまっている。それは多分、東北の震災のころからスタートしていると思います。あのころ、私は経済同友会の集まりで、結構キャッシュをたくさん持っている大企業のトップがいたので、「なんでこんなにキャッシュを持っているのですか？」と聞くと、やっぱり「万一のために持っている」と言っていました。

結局、万一のために備えていることを、ずっと備えっぱなしでコロナリスクを抱えてしまったわけですね。コロナが来てしまったから、また万一のために備えている。万一ばかりで使っているところがない。だから使わないでキャッシュを少し増やすことはいいけれど、それをビジネスの強化というか、違う分野や違う地域に投資をしていって増やしておいたことによってコロナ禍も生き延びることができるのだと。ただキャッシュを持っていればセーフなんだというわけではない。

そういう意味ではグロース・オプションに対して、サバイバル・オプションという幻想に囚われているみたいな感じがします。そこはもう少し日本の企業は考えてほしいですね。今日は有益なお話をありがとうございました。

(文責 FIWA)

このページを印刷する

カテゴリー FIWAマンスリー・セミナー講演 1

タグ [Vol.241] 2023年01月16日発行

【Vol.241】FIWAマンスリー・セミナー講演より（講演2）

お金にまつわる過去・現在・未来

講演 岡本 和久 CFA, FIWA
レポーター 赤堀 薫里

お金は国家が発行して永遠に変わらないものだと思われていますが、長い歴史で考えると、それはお互いの信用、人間関係の中で生まれてきているものです。今のようなお金という制度は100年ほどの産物であり、これから何十年もかけて変わっていくということは十分にあり得ます。



お金と通貨制度は非常に大きな変化を生みながらやってきました。お金によって、時間が価値を持つようになってきた。最初、ユダヤ教以外は基本的に西洋では利子を取ることは背徳行為だった。しかし現実には利子は古代から存在していた。お金がどんどんたまっていくメディチ家がサポーターになって、ルネッサンスが起こり芸術活動を支えていった。それから宗教改革が起き、宗教で今まで絶対変わってはいけないというものが徐々に変わっていくようになった。

そしてカトリックの改革、ベネディクト14世が『時には価値がある』ということを表明します。誰かがお金をもって家を買って、その家に誰かを住まわせて、家賃を取ると、金利を取るとはいったいどう違うのか、同じではないのか。だから、金利を取るといふのはそんなに悪いことではない。時には価値がある。時間でお金を稼いでいくことは別に背徳行為ではない。

また空間移動で価値をもつ。大航海時代があって、東インド会社がオランダや英国に設立されます。株式会社と株式取引所もできて、そしてチューリップを始めとするバブルが起こります。要するに場所を移動することによってモノの価値が増える。時間を移動することによって価値をもつ。つまり、現代でいうアービトラージです。この二つでお金は増大していきます。お金は時間と空間の両方とも価値を加えることで増やすことができる。しかし、「余りものに値なし」と言われるように、余ってしまったものが持っているものは値段が下がる。安くなる。

国や中央銀行が発行しているのはそれほど昔からではないのです。国の信用で貨幣を発行しているということは、金（きん）の代わりのもので貨幣が流通していたけれど、それは国の信用ではなくて金の信用です。国そのものが発行体としての信用で貨幣を発行しているというのはそんなに昔からではない。一番厳密に言えば、ニクソンショック以降、ようやく金の呪縛から離れました。

国の信用が現在の貨幣の裏付けになっている。今のお金はそうです。通貨が大量に発行されるために、一通貨単位あたりの国家の信用は薄まっていく。通貨が一国の信用を基に発行されている以上、発行している通貨が増えるほど、その通貨一単位あたりの信用は希薄化する。だから円もこれだけ出してしまっただけで、さらに増えそうということになると価値が下がってしまう。

株式も、調達した資金で設備投資をして生産力が上がっていくのであれば、調達した資金に対するリターンを払うことができます。ただ調達した資金で、例えば値上り益狙いで土地を買うとか株を買う、ただそれだけで終わってしまうと結局それは生産性に結びつかないで、株式の価値が下がってしまうことと同じです。

情報の共有化が信用の基礎になっている。みんなが「これは安心なものだね」というのが信用の基礎になってきます。一人ひとりの信用が書き換えられることができない形で人々に共有される。これがブロックチェーンのこれからの使われ方になってくると思います。個人が提供できるものは、相手に感謝されること。世の中に喜んでもらえることが、やっぱり個人としての信用になっていく。昔の物々交換のように、個人がそれぞれの信用に基づいて通貨を発行できる時代が来るのかもしれない。そういうことがもしかしたらあるかもしれない。

情報がみんなに共有されて、一人ひとりの信用が書き換えることのできないかたちで、人々に共有されるということになれば、一人ひとりの借用証書が、もっと多く幅広く流通していくことが、もしかしたらあるかもしれない。暗号資産がありますが、これもそういう流れの中の一貫です。ビットコインなど、いろいろ事件が起こっています。今の形はまだ不完全です。これから何十年、数十年くらいかかるかもしれませんが、そのような時代になったときに、暗号通貨と呼ばれているかわかりませんが、通貨というものはそういうものになってしまうのかもしれない。

講演では、ヨーロッパ、イスラム、アジア、日本におけるお金の誕生から、日本の近世・近代・現代に至るまでのお金の変遷の解説と、今後の通貨制度の可能性についてお話しいただきました。

[このページを印刷する](#)

カテゴリー FIWAマンスリー・セミナー講演 2

タグ 【Vol.241】 2023年01月16日発行

【Vol.241】知って得する、ちょっと差がつく トリビア・コーナー

トリビア研究家 末崎 孝幸

1945年生まれ。1968年一橋大学商学部卒業、同年日興証券入社。調査部門、資産運用部門などを経て、日興アセットマネジメント執行役員（調査本部長）を務める。2004年に退職。Facebook上での氏のトリビア投稿は好評を博している



千手観音の手の数は？

六観音の一つである「千手観音」には手が千本もあるわけではないのに、なぜ「千手観音」と呼ばれているのだろうか。

千手観音の実際の腕は左右21本で計42本のものが多い。ただ、胸の前で合掌している合掌手と腰のあたりで鉢を持つ宝鉢手（ほうはつしゅ）を1本とすると千手観音の手は40本ということになる。

この40本の手が、それぞれの25の世界を救うものであり、「 $25 \times 40 = 1000$ 」であると言われている。ここで言う「25の世界」とは、仏教でいう「三界二十五有（う）」のことで、天上界から地獄まで25の世界があるという考えだ。俗に言う「有頂天」とは、二十五の有の頂点にある天上界のことを指している。



写真は京都・三十三間堂の千手観音（Wikipediaより）

馬の骨

古来、中国では「役に立たないもの」として「一に鶏肋（けいろく）、二に馬骨」とっていた。「鶏肋」とは鶏のあばら骨のことで、小さ過ぎて役に立たない。そして「馬骨」は、役に立たないうえ大き過ぎて処分にも困る。ここから、誰にも必要とされず役に立たない余計者という意味になったのである。

さらに、その意味が「大人なのに成長過程や職業がわからない」という意味でも使われ、「馬の骨」は現在のような「素性のはっきりしない者」を罵る場合に使うようになったのである。

多士濟濟（たしさいさい or たしせいせい）

多士濟濟は、中国最古の詩篇である「詩経」の中にある言葉。「多士」は多くの優れた人材、「濟濟」は数多く盛んな様子ことから、優れた人が多い様子を意味する。本来の読みは「たしせいせい」であるが、いつの頃からか「たしさいさい」と誤読されるようになり、今では慣用読みとして定着している。

ただ、NHKでは元々の読みである「たしせいせい」を使っている（NHK放送文化研究所）。また、国語辞典の多くは「たしせいせい」を主見出しとしながらも「たしさいさい」の読みも掲載している。

（追記）熊本市に「済々黌高校（せいせいこうこうこう）」という県立高校がある。川上哲治が一時期在籍していた学校として知られており、この高校の存在を知っている人は「多士済済」を「たしせいせい」と読むのではなからうか

ポテトチップス誕生秘話

19世紀の半ば、アメリカニューヨーク州のサラトガ・スプリングスのとあるレストランで、客の一人がフライドポテトが厚すぎるとクレームを出して、何回も作り直しをさせた。うんざりした料理人のジョージ・クラムは、フォークで刺せないほど薄くして困らせてやろうと考えた。

ところが、クラムの嫌がらせに対して、客は「とてもおいしい」と大喜びし、クラムの思惑とは逆の結果になった。そして、この料理は（付け合わせなど食事の一部ながら）「サラトガ・チップス」という名でレストランの公式メニューになったのである。

桃源郷



帰去来辞（帰りなんいざ、田園将にあれなんとす なんぞ帰らざる）で有名な陶淵明の詩に「桃花源記」というのがある。

ある漁師が、どこまでも続く溪谷を船で奥へ奥へと遡った。どこまで来たのか分からなくなった頃、突然桃の花が一面に咲き乱れる林が兩岸に広がった。その美しさ、花びらの舞い落ちる様に心魅かれた男は、その源を探ろうと桃の花の中をさらに遡り、ついに桃林の奥に、秦の時代からの戦乱を逃れ、数百年もの間世界から隔絶された『桃源郷』を発見した。そこはどこにでもあるような農村の風景でありながら清楚で美しく、人はみな微笑みを絶やさず働き、見るものすべてが和らいでいた。彼はそこで手厚いもてなしを受けた後、帰って行った。しかしその後、漁師も、他の誰も、二度とその場所を見つけることは出来なかったという。

ここから「桃源郷」という言葉が生まれたのだが、トマス・モアの「ユートピア」思想と同様、理想郷を求める人間の姿は洋の東西、変わらないのかもしれない。

このページを印刷する

カテゴリー

トリビア・コーナー

タグ

【Vol.241】2023年01月16日発行

【Vol.241】FIWA認定会員 投稿コーナー

内田英子（CFP,FIWA*）さんのブログより「適切なつみたて投資の家計への組み入れ」

寄稿：FIWA®協認定正会員 内田 英子氏
CFP、FP1級、消費生活アドバイザー

*FIWAは金融商品の販売を行わないアドバイザーに与えられる称号です

自己紹介

FIWA認定会員の方の投稿をご紹介しますコーナーです。

今回は全五回のうち四回目の内田英子さん、松山で活躍しているホンモノのアドバイザーです。

FPオフィス幸せ家族ラボ代表。

証券会社、保険ショップ勤務を経て、独立。

かつての専業主婦経験も活かしながら、子育て世帯を中心に家計の総合医として暮らしの健康を維持するあらゆる選択のアドバイスを金融機関から完全に独立した立場で行っている。



HP : <https://fplabo-happyfamily.com/>

Instagram : https://www.instagram.com/eiko_fp/

こんにちは。FIWA®正会員の内田英子です。

前回のコラムに引き続き、私がお引き受けした家計相談の現場において、つみたて投資に適した制度を活用した事例をご紹介します。今回の事例で利用したしくみは一般NISAです。

一般NISAは厳密に申し上げればつみたて投資に適したしくみではありませんが、資産形成においては、できるなら活用していきたい制度です。皆様の資産形成やそのアドバイスにお役立ていただけましたら幸いです。

◆ご相談者データ

Cさん（52歳・会社員）、妻（51歳・パート勤務）、長女（24歳）、長男（22歳）

※現在は夫婦二人暮らし

◆ご相談内容

子どもが独立し、老後のことが気になってきた。保険の加入内容について見てほしい。現在していないが、ふるさと納税や資産運用についても教えてほしい。

◆ご相談時のCさん夫婦の希望と将来の見解

- 住宅：一戸建てを保有。住宅ローンは7年ほど前に完済。現在は固定資産税と火災・地震保険料の負担のみ。
- 働き方：夫婦とも今後の職に不安はない。
- 生活：家計管理は妻が担っており貯蓄を確保している。
- 現状の家計についての不安はないが、子どもの教育費が予想より掛かり、老後資金を思うように準備できていないことに不安を感じている。
- 税金負担が重いことも不満に思っている。
- 老後:できる限り働き続けたい。
- 退職後はできる限りゆとりをもって過ごしたい。
- 老後生活においては、できれば違う土地に移住して、旅行などの楽しみも積極的にもちたい。

◆Cさんの家計データ

- 年間収支 約300万円
- 年間世帯収入計 1,400万円
 - 夫 年収（給与収入・額面）1,100万円
 - 妻 年収（給与収入・額面）300万円
 - 夫は65歳退職だが55歳以降給与は減額、60歳以降は更なる減額を見込む。退職金は1,000万円。
- 金融資産計 約1,900万円
 - 金融資産計 約1,900万円
 - 預貯金 約1,550万円
 - 保険（積立型※変額保険を含む）約180万円
 - 株式（持ち株会※現在は積立なし）約170万円

目次

1. 現状のままでは88歳で資産が尽きる見込み
2. まずは支出の見直しで未来の自分への仕送りを増やす
3. 資産運用で物価上昇にも強い家計へ
4. まとめ

【1】現状のままでは88歳で資産が尽きる見込み

大黒柱であるCさんのもと、夫婦共働きのCさんご夫婦。お子様の教育に熱心で、これまでの教育費は高い水準でしたがご夫婦で協力のもと乗り切ってきました。将来については何となく大丈夫だろうとの考えをお持ちですが、税金負担が重く、ご自身の希望されるペースで資産形成ができていないことに焦りを感じています。退職まであと10年あまり。時間も限られてくる中で、有効な一手を探るためライフプラン・シミュレーションを実施、今後の家計の課題を検証しました。

ライフプラン・シミュレーションの結果、お二人が健康にリタイアを迎えられた場合は65歳時点で4,000万円程度の資産が見込まれました。しかし年金収入はご夫婦お二人あわせても手取り月25万円程度。2度の減収の壁を乗り越えても、現在の家計のままでは、資産は88歳頃に尽きることが予測されました。収入が減ったら支出も減らす。当たり前のようですが、危機感を持ち最悪の事態に陥る前にこれを実際に実行できる方は多くないと感じます。孫への援助や住宅の修繕費、介護資金など、これまではなくとも老後に新たに登場する支出もあります。今後の年金生活を見据えた、家計管理方法と支出を減らす意識を持つ大切さを改めてお伝えしました。

また、加入している保険は、死亡保障では1,300万円ほど。そのうち1,000万円の保障は60歳時点で終了します。妻も働いていて、遺族厚生年金があると言っても受け取れる年金額には天井があります。Cさん万が一の際の生活費を現状の8割とすれば、年金だけでは半分程度しかまかなえないことが予想されます。万が一の際、老後の妻1人の年金生活を想定すると、現状の家計のままでは厳しいものになるだろうことが推測されました。

ただし、足りないからと言って保険に加入して保障を増やすとその分保険料負担は増加します。そこで、保険加入のアプローチから始めるのではなく、支出の見直しや資産形成プランの見直しを含めた多角的な対策を検証していくこととしました。

【2】 まずは支出の見直しで未来の自分への仕送りを増やす

まずは、年金受給を始める65歳以降に、今よりも月3万円、年間36万円減らし、自動車を1台に減らすことを組み込みシミュレーションしました。その結果、万が一の必要保障額は3,000万円程度減らせることが見込まれ、かつ保障の積み増しが必要な期間も今後数年に限定できそうだということが推測されました。また、お二人が健康にリタイアを迎えられた場合も、資産寿命を維持できそうだということがわかりました。とはいえ、支出の見直しはすぐに行えるわけではありません。まずは今からの支出の見直しをできる範囲で一緒にしていくことで、未来へのご自身への仕送りを増やし、万が一にも強い家計をこつこつとつくっていくこととしました。

【3】 資産運用で物価上昇にも強い家計へ

支出の見直しで万が一にも強い家計をつくるといっても、限度があります。例えば今後の物価上昇の可能性。生命保険金は定額ですし、預貯金も低金利です。年金額も変化しますから、今の時点で足りるからと言って、物価上昇時には必ずしも十分な金額が確保できるとは言えません。そこで、今後の物価上昇と取り崩し期に備え、資産運用をご提案しました。

ご提案したプランは以下の通りです。

一般NISAを想定し、毎年最大200万円ずつ5年間分散して買付け
利回りは年3%を想定。分散投資を行う。

運用期間は最低10年、65歳以降の取り崩しを想定

つみたてNISAやiDeCoも選択肢にありましたが、Cさんご夫婦にはまとまった資金があること、希望されるリタイアまで10年あまりであること、リタイア後のお二人の暮らしのご希望、といったことを踏まえると、少額をつみたて投資は適当ではないと思われました。そこで一般NISAを使った分散投資をご提案しました。

ただし、一般NISAはつみたてNISAやiDeCoと比較すると、制度を活かすには金融商品の選別力がより求められると考えています。非課税期間は原則5年であり、投資対象は広く、ロールオーバーできる※と言ってもNISA口座内でのリバランスやスイッチングができないためです。個別銘柄の見極めができる投資上級者の方であれば、活用の特段難はないのですが、Cさんにはご自身による運用経験はありません。

そこで、バランス型投資信託を利用した一般NISAの活用を見込み、必要な基礎知識のレクチャーから始めることとしました。投資金額は当初最大年200万円と提示しましたが、あくまで投資に充てられる範囲であり、ご自身のリスク許容度を超えるようであれば、すべてを投資に充てる必要はありません。また下落相場に備えるなら、控えておく資金も必要でしょう。Cさんの場合はリスク許容度が低めでしたので、投資額を下げてNISAの枠内で投資に踏み出せるサポートを実施しました。

※2024年の改正後、新NISAにおいて非課税保有期間は無期限となりロールオーバーはできなくなります。

【4】まとめ

一般NISAを利用した事例をご紹介しました。投資を使った資産形成を盛り立てる現在の風潮に、自分も早くやらなければ将来お金に困ったことになるのではと不安を感じる方は少なくないように思います。Cさんご夫婦も同様に、現在の家計は順調ながらも昨今の風潮に影響を受け、将来への不安を募らせていました。

Cさんは、ご相談後このような感想を伝えてくださいました。

「今の生活を俯瞰し、今後の生活の見通しを立てることで、今できることがわかった。また家計管理の目標が明らかになったことで、投資についての不安も少なくなった。」

資産運用において大切なこととして、しばしば長期・分散や、余裕資金を充てることが挙げられます。

しかし、本当に運用に充てられる余裕資金の枠の範囲なのか、長期の運用期間中も維持できるのか。生活者の方がそもそもの資金活用について安心して悩み、見極められる場所は少ないと感じています。ご自身で運用の技術をお持ちであったり、良質な金融商品に良いタイミングで出会うことができたりすれば、余裕資金の枠を超えてしまっていて不意の大きな取り崩しを経ても、期待する利回りを実現できるのかもしれませんが、しかし、技術はすぐには身につけませんし多くの金融商品がある今、良質な金融商品を見極めていくことは易しいことではないと感じます。投資をギャンブルにしないために、今後も家計の総合医として投資への第一歩を踏み出すサポートを続けていきたいと考えています。

(文責 FIWA®)

このページを印刷する

カテゴリー FIWA認定会員 投稿コーナー

タグ [Vol.241] 2023年01月16日発行

【Vol.241】FIWA動画紹介

FIWA理事長、岡本和久より新年のご挨拶（FIWAみんなのお金チャンネル）

新年にあたり昨年の実績、今年の目標などお話をさせていただきました。（8分52秒）

20230101 FIWA岡本より新年ごあいさつ



兜日本株価指数にみる日本のライフ・サイクル

明治11年(1878年) から今日までの兜日本株価指数と歴史上の出来事をながめていると見えなかったものが見えてきた。国のライフ・サイクルは明治維新～終戦、終戦～2012年ごろ、そして今、新しいパイオニアリング期に入っているのかも知れない。では何が足りないのか・・・そんなことを考えてみました。（30分05秒）

202212 兜日本株価指数にみる日本のライフ・サイクル



このページを印刷する

カテゴリー

動画紹介

タグ

【Vol.241】 2023年01月16日発行

【Vol.241】FIWA®理事リレー投稿

行く価値ある場所に近道などありませぬ

FIWA®副理事長 岩城みずほ
CFP®/FIWA®/社会保険労務士

2022年師走。積み残しの仕事を気にしつつ、このコラムを書いています。例年の如く、今年も目まぐるしく過ぎた1年でしたが、今年は、大きな波が次々と3つも起こりました。



■大波その1は乗り越え、ただいま小波の上

底冷えのする2月20日、ミーティングを重ねてきたプロジェクト「FIWA®クラウドファンディング」がスタートしました。誰でもできる「長期・分散投資」の有効性を、一人でも多くの方に実感いただくための本格版株価指数連動 定額積立投資シミュレーションソフトを作るために、その制作費用ご支援いただくこと。目標金額は420万円。

初めてのクラウドファンディングです。「必ず成功する！」という気持ちは強かったものの、FIWA®はまだまだ知名度も低いし、本当に達成できるのか不安でした。SNSやメールで支援のお願いをし……そう、あとは「何が何でもやり通すんだ！」という忍耐のみ…。

特定非営利団体（NPO法人）「みんなのお金のアドバイザー協会～FIWA®」は2019年9月24日に設立しました。人生が長く多様化し、多くの人が資産運用を必要とする時代です。専門家によるアドバイスが求められていますが、実際には、「相談者の幸福を自己の目的とすべき」と心得る本当の意味での顧客本位のアドバイザーは非常に少なく、顧客のライフプランに不適切な金融商品の販売にかかわり、コミッションを受け取っている自称アドバイザーも多くいます。不適切な推奨に基づく商品の購入や資産運用は、長期的には家計資産に大きな損失をもたらします。

私は、これまでの相談業務で、無駄の多いアセット・アロケーション、アセット・ロケーションをたくさん見てきました。リスク許容度を超えた投資対象を保有している例、長期投資に不適切な銘柄選択、リターンに対して高すぎる手数料、不必要な回転売買や銘柄入れ替え…。これを長らく続けた結果が、日本に投資がなかなか根付かない、多くの家計が資産運用をしていこうという気持ちになれないということになっているのだと思います。

こんなことがいつまで続くのだろう。

問題は、「誰が顧客本位のアドバイザーかわからないこと」だと思いました。鍵になるのは「顧客ファーストの質の高いアドバイザーを増やしていくこと」です。この状況を少しでも改善していきたいという志を持つ仲間と、FIWA[®]を設立しました。そんな思いを込めて創ったFIWA[®]の看板を背負って失敗するわけにはいきません。自らを奮い立たせる日々が続きました。

そして、私たちの思いを受け止めてくださったたくさんの方々のお陰で、4月20日完走。有終の美を飾ることができました。蓋を開けると、目標金額を大きく上回る460万円のご支援をいただき、また、半分以上の方が、このプロジェクトでFIWA[®]を知ったという方々でした。本当に多くの方から、FIWA[®]の理念への共感のお言葉をいただいたことを心強く思っています。ご協力いただいた皆様には改めて感謝申し上げます。

「FIWA[®]つみたてインディくん」は、決済システムを追加し、11月から使用権の一般販売をしております。特徴は文末にご紹介しています。

■大波その2は突然に。波に向かって真っ直ぐに歩き続ける

FIWA[®]設立以来、多くの時間をFIWA[®]の活動のために消費するようになりました。「私はすごく頑張っている。すごく忙しいけど、手を抜かずに必死でやっている」。いつしかそんな思いにとらわれるようになりました。そして聞きたくもないのになぜか耳に入ってくる批判と陰口。体調を崩しネガティブ思考になっていく中、不運は重なるもので家庭内にも深刻な問題が重なりました。

そんな折、FIWA[®]の中にも解決すべき問題が生まれました。いずれも私たち理事の力不足、認識不足から生じた問題です。コロナ禍で行動が制限されていたことで、意思疎通が疎かになり、FIWA[®]のメンバーの気持ちを私たちが汲み取ることができなかったことが原因です。

もちろん、決してメンバーの皆さまを蔑ろにしていたわけではないのですが、しかし、招いてしまった結果は結果。自分はどうすべきだったのだろう。考え続ける日が続きました。

教えてくれる人、不満を言ってくれる人、注意してくれる人、叱ってくれる人、こうした人は年齢を重ねるにつれて少なくなっていくものです。でも、こういう人こそ、足もとに水をかけてくれて肥料をまいてくれて、育て、実を結ばせてくれる人なのだ。今、こんな風に思えます。

そして、「現場に宝もあり」を実感しています。FIWA[®]メンバーの方々のお話を聞かせていただき、各々が自身の信念に沿ってコツコツと地道に自分の仕事をやり続けていることを誇りに思いました。これこそがFIWA[®]の宝です。私たちは、世の中を良くしたいという一念でFIWA[®]を立ち上げました。そんな私たちに賛同し、同志となってくれた仲間です。組織を創っていくには時間がかかる。どうぞ、しつこく、気長に、お付き合いください。「一念、道を拓く」です。私から「お話ししましょう」とメールが届いたら、どうぞ1時間ばかり時間をください。お願いします。

■大波その3は岸田内閣「資産所得倍増プラン」

金融庁から幾度も連絡があり、にわかには周辺が騒がしくなったのは、半年ほど前だったでしょうか。岸田首相は、「NISA拡充の実現のためには、顧客本位のアドバイザーを増やすこと、金融教育の強化することをセットにして行なうべきだと考えている」ということを小耳に挟んではいたものの、どうやら本気で取り組むらしい…。

「顧客本位」の議論が俎上に上る？

俄には信じられない思いでした。そりゃそうでしょう。フィデューシャリー・デュティという言葉が認識されるようになったのは、2014年9月に公表された金融等の行政指針です。フィデューシャリー・デュティとは、顧客本位の業務運営のことを言います。2017年3月金融庁は「顧客本位の業務運営に関する原則（フィデューシャリー・デュティ）に関する原則」を公表し、文字通り顧客の立場に立った業務運営を徹底するよう、金融事業者向けに取り組みを促しました。

金融庁が想定していたのは金融事業者でしたが、私は、2017年6月3日、自らのHPに「FPとしてのフィデューシャリー・デュティ宣言」を掲載し、金融庁に届けました。ファイナンシャルプランナー（以下「FP」）も、同じ意識を持って「フィデューシャリー・デュティ宣言（以下FD）」を行い、「お客様のために」自らの業務を遂行することを公約する必要があると思ったからです。

しかし、期待したのも束の間、FDによって業界の状況が改善することはなく、その後、金融庁も様々な取り組みを行ってはいましたが、原則は形骸化していきました。

月日は流れ、森信親元金融庁長官の真っ当な、そして厳しいご発言も忘れ去られたように感じていました。

しかし、そうではなかったのです。

今年の6月7日、経済財政運営と改革の基本方針（骨太の方針）と「新しい資本主義」の実行計画が閣議決定され、その中で「資産所得倍増プラン」としてNISAやiDeCoの拡充などの検討が始まりました。それに合わせて、9月に金融庁金融審議会分科会顧客本位タスクフォースが立ち上がり、私は突然、委員を拝任することになりました。肩書きは、「NPO法人みんなのお金のアドバイザー協会副理事長」です。

正直驚きました。創立から3年ほどの小さな団体の私たちの存在が認められたのです。絶対にブレることなく、正論を主張していこう。それがFIWA[®]の仲間に対し、FIWA[®]を応援してくださる皆さまに対し、そしてFIWA[®]の掲げるミッションであり、存在意義でもある「すべての生活者のみなさま」のために、私がすべきことだと腹を括りました。年内5回の審議会が行われ、FIWA[®]を代表して出席しました。11月からは、同じくFIWA[®]副理事長として、厚生労働省社会保障審議会にも出席しています。

12月6日に「金融審議会 市場制度ワーキンググループ顧客本位タスクフォース中間報告」が公表されました。

金融庁に強く要望し、報告書のP5に、「中立的な」ではなく、「顧客の立場に立ったアドバイザー」と明記し、ライフプランに基づいたマネープランを年金制度も含めて考えていくこと、インベストメント・チェーンにおいて顧客と販売会社の間に入り、顧客の判断をサポートするアドバイザーの役割の重要性を記していただきました。

引き続き、金融経済教育推進機構(仮称)と顧客本位のアドバイザーの認定・育成について、議論は続きます。報告案に記されているように、金融経済教育を進めていく公的機関は、国が主体となり、もっぱらに、国民のライフプランに合わせたマネープラン実現のための自助努力への支援、金融リテラシー向上のための金融経済教育の実行を目的にさせていただくよう、同時に、機構が、認定、養成するアドバイザーは、顧客の立場に立ち、もっぱら顧客の利益のみを考えて必要なアドバイスができる「顧客本位のアドバイザー」であるべきであることを提言し続けます。

何をもち「顧客本位」と定義するのか、認定基準をわかりやすく公表し、ゆくゆくは、誰が認定されたアドバイザーであるのか、認定者のリストの公表、そして、このアドバイザーがどんな人で何を相談できるのか、育成プログラムの公表も不可欠です。これらも引き続き要望していきます。

この報告書の方向性が、ブレることなく、「国民本位」で、きめ細かく、丁寧に進められていくことを、FIWA®を代表して、妥協なく、厳しく見守りたいと思います。

FIWA®の皆さん、私たちFIWA®が理念として掲げていること、みなさんの活動の一つ一つが育てる木が、やがて花を咲かせ、実を結びます。

「行く価値ある場所に近道などありませぬ」

すべての人たちのために、将来の世代のために、力を合わせて、進んでいきましょう！

参考

1) 「FIWA®つみたてインディくん」は、決済システムを追加し、11月から使用権の一般販売をしております。

特徴は、1) 内外20種の株価指数等(末尾一覧参照)に連動した積立投資の長期にわたるリスクとリターン、その資産形成への高い有効性を実際の過去データに基づき、視覚的に提示できます。

2) どのような投資信託、あるいはその組み合わせを選べば良いか、有効な判断情報を提供できます。

3) 現役世代には将来の資産形成のシミュレーション、並びにそれに基づいた支出可能な生活費の推計を提示します。

4) 引退後の世代には、資産を運用しながら取り崩すことで、資産の寿命を延ばすシミュレーションを行い、リタイアメント・プランの選択肢を提供できます。

個人投資家の皆様、アドバイザーの方々に、とても便利に簡単に使っていただけます。公的年金と合わせて高齢期の所得確保のために自助努力として行うDC(確定拠出年金)や、つみたてNISAのアセット・アロケーション、必要貯蓄・投資額などを判断する等にもぜひ活用ください。

参考2)

【資産所得倍増プラン 第三の柱】

消費者に対して中立的で信頼できるアドバイスの提供を促すための仕組みの創設

○そのため、中立的なアドバイザーの見える化を進めるとともに、そうしたアドバイザーにより顧客本位で良質なアドバイスが広く提供されるよう取り組んでいくことが重要である。そこで、令和6年中に新たに金融経済教育推進機構(仮称)を設置し、アドバイスの円滑な提供に向けた環境整備やアドバイザー養成のための事業として、中立的なアドバイザーの認定や、これらのアドバイザーが継続的に質の高いサービスを提供できるようにするための支援を行う。

○特に、こうした中立的なアドバイザーが行うアドバイスが投資初心者層へ広く提供されるよう、助言対象を絞った投資助言葉(例えば、つみたてNISAやiDeCoにおける投資可能商品に限定)の登録要件の緩和を、必要な監督体制の整備と併せて検討する。

家計の資産形成応援ツール

株価指数連動定額積立投資のシミュレーション・ソフト～FIWAつみたてインディくん～



[このページを印刷する](#)

カテゴリー FIWA理事リレー投稿

タグ [Vol.241] 2023年01月16日発行

大貫章氏のプロフィール

1958年東京大学文学部卒業。TBS報道局、坂本藤良経営研究室、産業能率大学経営管理研究所を経て、1968年以降、産業教育トレーナーとしてリーダーシップ訓練・問題解決訓練などに従事。その間、江戸末期の農政家・二宮尊徳の研究に取り組む。2001年報徳博物館評議員に就任。国際二宮尊徳思想学会会員。主な著書に『二宮尊徳の生涯と業績 -報徳仕法の理論と実際-』（幻冬舎ルネッサンス）、『二宮尊徳に学ぶ経営の知恵』（産能大学出版部）など多数。



現代にも通じる尊徳の教え

- 大貫 | 相馬藩で改革を担当した尊徳の一番弟子、富田高慶が書いた『報徳記』は岩波文庫にもありますが、明治時代からもずいぶん読まれました。明治天皇に奉納したら、いたく感激されたといえます。この本と福住正兄が書いた『二宮翁夜話』などが明治になって随分読まれ、尊徳ブームとなったのです。
- 岡本 | なるほど。
- 大貫 | 藩の家老などにも「仁の心で政(まつりごと)をする」ことを説いている。“大学の道” というのはリーダーの心得です。小学は読み書き算盤(そろばん)です。儒教というのは、孔子があちこちの殿様に自説を売り込んで歩いたところから始まっています。その点では報徳仕法と似ています。
- 岡本 | リーダーの教科書ですね。
- 大貫 | そうなんです。『大学』の中に書かれている修身・齐家・治国・平天下というのは、まさに藩をどのように治めるかということ。それにはまず、藩主自身がわが身を修めなさいということを言っているわけですね。今の日本の政治家も少しそのへんを勉強したほうがいい。
- 岡本 | そうですね。本当に。
- 大貫 | まじめに取り組む藩もあった一方で、ただ、「尊徳にやらせればうまくいく」と思う人もたくさんいた。尊徳は水野忠邦の天保の改革のときに幕臣に取り立てられた。ところがひどいもので、尊徳が何をしているかをほとんど知らないで、最初にやらされたのが土木工事。翌年には水野忠邦が失脚して仕事がなくなりました。ひどい話ですよ。尊徳はてっきり村おこしをさせてもらえると思っていたが、そのような話はまったく出てこない。
- 岡本 | ずいぶん、不遇の時期もあったそうですね。
- 大貫 | 一応、幕臣で士分を与えられているが、本当にやりたい仕法は何もやらせてもらえない。弟子たちが奔走して、結局、日光東照宮領2万石の改革を命じられた。そのとき、足掛け3年掛けて今までの仕法を集大成しました。

- 岡本 | 尊徳の報徳思想では、「荒地には荒地の徳がある。その徳を人間の徳で実り豊かな田畑に変える」ということを言っていますよね。これはある意味、企業が持っている人材や技術など、生産要素の可能性を最大限、効率的に活用しようというROEの発想にもつながる素晴らしい考えだと思います。今日、日本の企業は素晴らしい技術や人材やブランドがあるのに、それが十分に生かされていない。これを経営の徳をもって活用したら素晴らしいと思うんですね。その意味でも尊徳の教えは現代にも通用します。
- 大貫 | その通りですね。
- 岡本 | マックス・ヴェーバーの『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』という本は資本主義の本来の理念を書いたものですが、「天職に励むことで、できるかぎり利得をして、できる限り節約すれば富裕になる。その富を他に与えることで、天国に宝を積む」というようなことを書いています。これもまさに、「勤、儉、譲」です。
- もうひとつ、大貫さんのご著書でも書かれている、報徳は倫理、仕法は経済というポイントですが、アダム・スミスは『道徳感情論』と『諸国民の富(国富論)』という2冊の本で思想を体系化しています。これもまさに「報徳仕法」と同じことですね。ベンジャミン・フランクリンの「13の徳性」でも同じようなことを指摘している。何か18世紀の終りから19世紀にかけて、世界的に同じような考え方が生れていったというのはおもしろいなと思いますね。時代の流れだったのでしょうかね。
- 大貫 | そうですね。特に日本の場合、江戸時代も末期になると庶民の知的水準が非常に高くなってきていた。だから、明治維新で西洋からの文明開化をうまく受け入れることができたのでしょう。石田梅岩の石門心学なども全国にすでに広がっており、それを使いこなせるレベルの知識があった。そういうなかで二宮尊徳の思想が花開いたといえるのでしょうか。
- 岡本 | 今、もし、尊徳先生が生きておられたらなんとおっしゃるでしょうね。
- 大貫 | (笑)。まあ、あまり大言壮語をされる方でもないし、天下国家を声高に論ずる方でもないですからね。まあ、頼まれれば処方箋を書くでしょう。相馬藩の改革のときに作った馬仕法書などは、60年ずつ3期間、合計180年間の改革案を書いています。
- 岡本 | それはすごい。子々孫々、改革に取り組むということですね。
- 大貫 | 岡本さんも『老荘に学ぶリラックス投資術』で述べられていますが、われわれ、つい目先のことばかり気になる。しかし、視点を変えて超長期で物事を見る発想も大切だということでしょう。そうすると見え方が変わってくる。たぶん、それを言いたかったのでしょうか。
- 岡本 | まさに株式市場の見方と同じですよ。毎日の動きが気になるけど、10年先、20年先に視点を合わせていればそんなにじたばたすることはない。もっと理性的にマーケットとつきあえばずっとストレスはないのです。
- 大貫 | 特に日本人には感情がぶれる傾向があるように思いますね。日本人は感性豊かで心やさしい民族です。それはハートの世界。ヘッドの世界でも知識欲や記憶力・理解力は旺盛です。でも抽象的観念の扱いということになるとあまり強くない。議論をしても感情が先に立ってしまい、論理的な議論ができない。
- 岡本 | 「あの野郎、気に食わない」で終わってしまう。私は外資系企業で働いていましたが、外国人と会議をするとお互いに解決へ向けての道を探しているということをいつも実感しました。日本人との議論との違いに驚いたものです。日本では「ダメと言ったらダメ、イヤと言ったらイヤ」で終わってしまう(笑)。江戸時代に生きた二宮尊徳が徹底的に合理的な考え方に基づいて幾多の改革に成功したというのは、現代に生きるわれわれにとっても学ぶことが多いですね。尊徳の晩年について少しお話いただけますか？

大貫 | 先ほど、お話ししましたが、日光東照宮領の仕法に着手したのが尊徳67歳のときです。日光領の税法は定免(じょうめん)といわれる定額方式であったため、これまでの分度の手法が使えませんでした。それで、今でいえば政府系金融機関のような日光山貸付所という組織を利用して、そこに資金を集め、財団基金方式での事業を考えます。そのための資金集めに奔走しますが、そのうち中風にかかってしまいます。病に悩む体ながら、「駕籠(かご)に乗っていたのでは民情がわからない」といい、夏の暑い日ざしのなか、村々を徒歩で回っていたそうです。また、娘が難産の末、亡くなったときも、「私事をもって公事を廃することはできない」として、葬儀には息子を代参させ、病身を引かずりながら、村回りをやめませんでした。

岡本 | 鬼気迫る感じですね。

大貫 | 晩年には「自分の本願は、人々の心の田の荒廃を開拓して、天から預かった良い種、「仁義礼智」というものを培養して、この善種を収穫して、また蒔(ま)き返し、蒔き返して、国家に善種を蒔き広めることにある」と言っていました。「人の心の荒地が開けたならば、土地の荒地は何万町歩あろうと心配することはない」とも言っています。

岡本 | 結局、すべて「人の心」次第ということですね。

大貫 | 安政3年、1856年に70歳の天寿をまっとうして尊徳は静かに息を引き取りました。弟子たちへは次のように遺言をしました。「私の死ぬのも近いだろう。私を葬るのに、分を越えるではない。墓石を立てるでない。碑も立てるでない。ただ、土を盛り上げて、そのそばに松か杉を一本植えておけば、それでよろしい。決して私の言葉にたがってはならぬ」と。

岡本 | ありがとうございました。二宮尊徳という人は、もっと、もっと本当の姿、思想を現代人に知ってもらいたい人だと思います。また、彼の長期的な視点はわれわれの志す長期投資にも通じるところがあります。

大貫さんのご著書でも最後に紹介されている言葉は、「慎めや小子(お前たち)。速やかならんと欲するなかれ。速やかならんと欲すれば大事を乱る。勤めよや小子。倦むことなかれ」です。手っ取り早く儲けようとする、大きな目的を失うことになる。投資という観点からも含蓄の深い言葉ですね。大貫さん、お忙しいところ長時間、本当にありがとうございました。

参考文献

『二宮尊徳の生涯と業績—報徳仕法の理論と実際—』

(大貫章著、幻冬舎ルネッサンス)

『二宮尊徳に学ぶ経営の知恵』

(大貫章著、産業能率大学出版部)



二宮尊徳関連年表

年齢	年号	西暦	出来事	世界・日本の主な歴史的出来事
1才	天明7	1787	7月23日、小田原領内栢山村で誕生	1787 老中、松平定信、寛政の改革
5	3	1791	洪水で酒匂川が決壊、家、田地の大半が流失する	1789 米、初代大統領ワシントン フランス革命勃発
14	12	1800	父 死亡	1800 伊能忠敬、蝦夷地を測量
16	2	1802	母 よし死亡、一家離散 伯父万兵衛方に寄食する	1802 「東海道中膝栗毛」発刊
17	3	1803	粟種を収穫、捨て苗の収穫から積小為大の理を悟る	1804 ナポレオン皇帝即位
20	3	1806	生家跡に小屋を建てる 質地9反を買い戻す	
23	6	1809	田2反6畝11歩買い戻す	1808 間宮林蔵ら樺太を探検
24	7	1810	田地1町4反余となる 京・伊勢旅行	
25	8	1811	服部家の若党となる	
31	14	1817	中島きのと結婚、田地3町8反余	
32	文政元	1818	服部家の家政再建を引受ける 小田原藩主大久保忠真侯から善行表彰	
33	2	1819	妻 きのと離別する	
34	3	1820	岡田なみと結婚 年貢収納用斗拵を改正 小田原藩士の五常講創設	
35	4	1821	桜町調査復命 嫡男 弥太郎誕生 服部家第一回仕法結了	
37	6	1823	一家をあげて桜町に移転 復興仕法本格化 回村、表彰、芋コジなどを実施	
39	8	1825	関東地区凶作	1825 異国船打払令を出す
42	11	1828	トラブル多発、辞任願い却下	
43	12	1829	出奔、成田山に参籠 以後仕法は順調	1828 シーボルト事件
45	天保2	1831	忠真侯に報告、公より「以德報徳」の賛辞	1832 英、第1回選挙法改正
48	5	1834	報徳訓などを著作	1833 天保の大飢饉 1835 坂本龍馬誕生
51	8	1837	小田原の飢民救済 大久保忠真侯死去	1837 大塩平八郎の乱 1837 ヴィクトリア女王即位
53	10	1839	相馬藩士、富田高庵、尊徳の弟子に諸藩 諸村の仕法指導で多忙	1840 アヘン戦争 1841 天保の改革
58	弘化元	1844	日光仕法受命、雛形作成に着手	
59	2	1845	相馬仕法開始	
60	3	1846	日光仕法雛形完成 小田原仕法畳置き	
67	6	1853	日光仕法発業 尊徳発病、女子死亡 現地検分	1853 ペリーの艦隊来航 1854 日米和親条約
70	3	1856	10月20日没す	1858 安政の大獄 1860 桜田門外の変

『二宮尊徳の生涯と業績』(大貫章著、幻冬舎ルネッサンス)などより岡本作成

<モデルポートフォリオ:2022年12月末の運用状況>

単位: %

		トータルリターン				リスク	1万円ずつ積み立てた場合の投資額に対する騰落率			
		1ヵ月	1年	5年 (年率)	10年 (年率)		10年 (年率)	1年 12万円	5年 60万円	10年 120万円
4資産型	積極型	-6.46	-4.23	5.82	10.69	14.34	-2.41	20.90	49.70	135.09
	成長型	-5.45	-4.63	3.83	7.62	9.73	-3.11	12.12	30.64	91.40
	安定型	-4.44	-5.16	1.67	4.46	5.71	-3.89	3.65	13.38	52.84
2資産型	積極型	-8.42	-5.92	7.60	11.28	15.63	-4.23	25.66	58.86	169.06
	成長型	-7.36	-5.95	5.12	8.27	11.24	-4.68	15.53	36.90	113.96
	安定型	-6.31	-6.13	2.46	5.16	7.56	-5.22	5.83	17.29	66.53

* 投資にかかるコストは控除していない。積み立ては、税引き前分配金再投資。ポートフォリオは毎月リバランスをしたものとする。積み立ては計算月数分を運用したものとする。例えば1年の場合は2021年12月末に1万円投資資金を積み立て始め、2022年11月末の投資資金までとする(2022年12月末積み立て分は運用期間がないため含めていない)。出所:イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがMorningstar Directにより作成。Morningstar Directについてのお問い合わせは、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンのお問い合わせメール(<https://www.ibbotson.co.jp/contact-us/>)まで。

ポートフォリオの資産配分比率(外貨建て資産は円換算ベース)

4資産型		国内株式: TOPIX	外国株式: MSCI KOKUSAI	国内債券: NOMURA- BPI (総合)	外国債券: FTSE WGBI (除く日本)	
		積極型	40%	40%	10%	10%
		成長型	25%	25%	25%	25%
		安定型	10%	10%	40%	40%
2資産型		世界株式: MSCI ACWI (含む日本)		世界債券: FTSE WGBI (含む日本)		
		積極型	80%	20%		
		成長型	50%	50%		
		安定型	20%	80%		

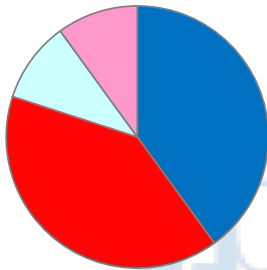
ポートフォリオは「インベストライフ」が参考のために考案した資産配分に基づき、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがデータを算出しています。特定の資産配分による投資の推奨を行うものではありません。

「長期投資仲間」通信『インベストライフ』のその他の記事はこちらからご覧ください。
<http://www.investlife.jp/>

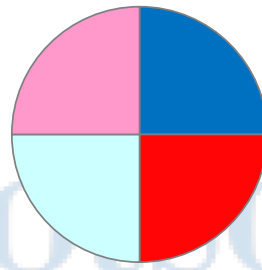
4資産型

- 国内株式: TOPIX
- 外国株式: MSCI KOKUSAI
- 国内債券: NOMURA-BPI (総合)
- 外国債券: FTSE WGBI (除く日本)

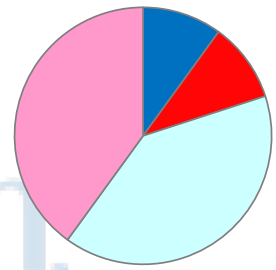
積極型



成長型



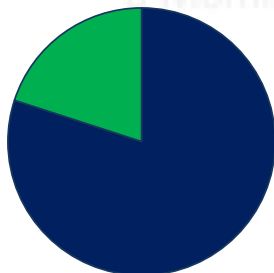
安定型



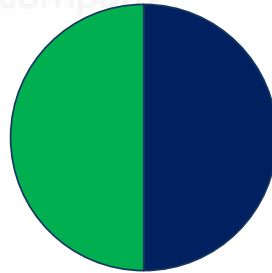
2資産型

- 世界株式: MSCI ACWI (含む日本)
- 世界債券: FTSE WGBI (含む日本)

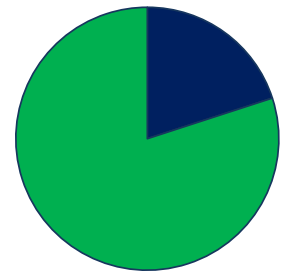
積極型



成長型



安定型



<純資産上位ファンド(毎月および隔月決算型を除く):2022年12月末の運用状況>

当資料は「インベストライフ」のために、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがデータを算出、作成しています。特定の投資信託による投資の推奨を行うものではありません。

今回順位	前回(22年9月末)順位	運用会社名	ファンド名	トータルリターン				リスク	1万円ずつ積み立てた場合の投資額に対する騰落率				1万円ずつ積み立てた場合の月末資産額				2022年12月末		イボットソン分類
				1か月	1年	5年(年率)	10年(年率)		10年(年率)	10年(年率)	2000年1月~276万円	1年12万円	5年60万円	10年120万円	2000年1月~276万円	1年12万円	5年60万円	10年120万円	
1	1	三菱UFJ国際	eMAXIS Slim 米国株式(S&P500)	-4.5	9.4	—	—	—	0.2	—	—	—	12.0	—	—	—	14,227	18,548	外国株式・北米型
2	6	三菱UFJ国際	eMAXIS Slim 全世界株式(オール・カントリー)	-7.2	-25.3	—	—	—	-15.5	—	—	—	10.1	—	—	—	7,818	9,263	外国株式・世界型
3	2	AM-One	グローバルESGハイクオリティ成長株式ファンド(為替ヘッジなし)	-7.4	-15.0	15.4	19.4	22.6	-10.8	35.4	131.5	370.0	10.7	81.2	277.7	1,283.0	6,695	20,540	外国株式・北米型
4	5	楽天投信	楽天・全米株式インデックス・ファンド	-4.2	-2.2	16.5	20.3	20.0	-4.9	47.4	142.2	—	11.4	88.4	290.7	—	6,586	42,437	外国株式・北米型
5	7	SBI AM	SBI・V・S&P500インデックス・ファンド	-4.7	5.9	13.8	—	—	-0.8	48.3	—	—	11.9	89.0	—	—	6,554	19,109	外国株式・北米型
6	4	アライアンス・B	アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信 Bコース(為替ヘッジなし)	-5.3	3.0	—	—	—	-2.5	—	—	—	11.7	—	—	—	6,474	16,016	外国株式・世界型
7	3	ゴールドマン・S	netWIN GSテクノロジー株式ファンド Bコース(為替ヘッジなし)	-4.5	9.3	—	—	—	0.2	—	—	—	12.0	—	—	—	6,423	16,999	外国株式・北米型
8	8	AM-One	投資のソムリエ	-3.0	-12.0	-0.2	—	—	-7.5	-6.5	—	—	11.1	56.1	—	—	5,517	10,685	アロケーション・リスクコントロール型
9	10	レオス	ひふみプラス	-7.7	-28.1	8.5	—	—	-16.0	8.2	—	—	10.1	64.9	—	—	4,699	21,595	外国株式・世界型
10	9	AM-One	グローバル・ハイクオリティ成長株式ファンド(為替ヘッジなし)	-4.2	-18.1	3.3	14.8	18.0	-7.4	3.2	54.6	—	11.1	61.9	185.5	—	4,515	43,613	国内株式・キャッシュバランス型
11	11	フィデリティ投信	フィデリティ・日本成長株・ファンド	-5.8	-16.5	4.3	11.8	19.0	-7.4	11.3	43.5	95.7	11.1	66.8	172.2	534.2	4,341	28,304	国内株式・大型成長型
12	12	ニッセイAM	<購入・換金手数料なし> ニッセイ外国株式インデックスファンド	-4.9	5.3	11.7	—	—	-1.9	41.1	—	—	11.8	84.7	—	—	3,999	25,177	外国株式・世界型(除く日本)
13	16	フィデリティ投信	フィデリティ・世界割安成長株投信 Bコース(為替ヘッジなし)	-9.7	-23.7	—	—	—	-15.9	—	—	—	10.1	—	—	—	3,919	14,064	外国株式・世界型
14	15	三菱UFJ国際	eMAXIS Slim 先進国株式インデックス	-7.0	-11.5	9.5	—	—	-11.0	26.7	—	—	10.7	76.0	—	—	3,518	8,680	外国株式・世界型
15	14	日興AM	グローバル・ロボティクス株式ファンド(年2回決算型)	-4.9	5.4	11.7	—	—	-1.8	41.4	—	—	11.8	84.8	—	—	3,476	19,059	外国株式・世界型(除く日本)
16	13	三井住友トラスト	次世代通信関連 世界株式戦略ファンド	-5.4	3.5	—	—	—	-1.4	—	—	—	11.8	—	—	—	3,448	21,176	外国株式・世界型
17	19	セゾン投信	セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド	-6.7	-19.8	17.2	—	—	-10.9	50.0	—	—	10.7	90.0	—	—	3,336	29,653	外国株式・世界型
18	18	さわかみ投信	さわかみファンド	-6.5	-8.4	3.4	11.6	17.9	-4.4	9.9	36.5	96.8	11.5	66.0	163.8	537.4	3,252	29,206	国内株式・大型ブレンド型
19	23	キャピタル・I	キャピタル世界株式ファンド	-2.6	3.4	6.2	9.5	11.2	-0.1	20.9	42.1	—	12.0	72.5	170.6	—	3,242	19,252	アロケーション・標準型
20	24	日興AM	グローバル・ロボティクス株式ファンド(1年決算型)	-5.1	-15.8	—	—	—	-10.2	—	—	—	10.8	—	—	—	3,219	12,785	外国株式・北米型

対象は追加型株式投資信託のうち2022年12月末時点で1年以上の運用実績があるもの(毎月・隔月決算型、ETF・DC・SMAなど専用投資信託を除く)。

積み立ては税引き前分配金再投資、計算月数分を運用したものとす。例えば1年の場合は2021年12月末に1万円を積み立てを開始し、2022年11月末投資分までの2022年12月末における運用成果とする(2022年12月の積み立て額は入れない)。

出所: MorningstarDirectのデータを用いてイボットソン・アソシエイツ・ジャパンが作成。MorningstarDirectのお問い合わせはイボットソン・アソシエイツ・ジャパンのお問い合わせメール(<https://www.ibbotson.co.jp/contact-us/>)にてご送信ください。